

第4回 尼崎市総合計画審議会 専門部会 議事録

日時	令和2年4月13日(月) 18:30~
開催手法	WEB会議
出席委員	青田委員、稲垣委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、佐藤委員、瀧川委員、久委員
欠席委員	なし
事務局	塚本総合政策局長、中川政策部長、橋本都市政策課長、都市政策課職員

1. 開会

- 資料の確認
- 議事録署名委員の指名

2. 市が実施するPDCAサイクルの報告について

(部会長)

それでは、次第の「2 市が実施するPDCAサイクルの報告について」に移りたいと思います。

事務局から、説明をお願いいたします。

(事務局)

〈資料第1号、第1号-2、第1号-3について説明〉

(部会長)

今回は、市のPDCAサイクルの報告という形になっていますが、当審議会として、市のPDCAが機能しているかチェックをしなければなりません。

「施策間連携ガイドブック」についても、更新していただいておりますが、ご意見はございますでしょうか。

次の議題である「現総合計画の点検について」にも、絡んでくる話ですので、後ほど、合わせて議論していただければと思います。

3. 現総合計画の点検について

(部会長)

続きまして、「3 現総合計画の点検について」、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

〈資料第2号、資料第2号-2について説明〉

(部会長)

昨年度、事務局で取り組んでいただいた現総合計画の点検ですが、様々な内容があります。議題のメインは、資料第2号-2の2ページにある「市民意見聴取により見えてきたこと」だと思います。

また、資料第2号にある「点検結果のフレーム（イメージ）」が、現総合計画の点検結果の最終報告書の目次的なものになるということです。

資料第2号-2の「市民意見聴取により見えてきたこと」のまとめ方についても議論していただき、次回の専門部会で詳細を詰めていきたいということなので、最終、専門部会としてどのような結論に持っていかを考えていきたいと思います。

では、まず私から意見を述べさせていただきます。

「市民意見聴取により見えてきたこと」が、昨年度、事務局が取り組んできた現総合計画の点検のまとめだと思えますが、「まちの将来像」である4つの「ありたいまち」の点検について、様々なワークショップを通じて、「『協働』の取組の必要性は確認できた」とありますが、そこまで言い切れるのでしょうか。

また、ワークショップで出てきた意見のすべてが「4つの『ありたいまち』につながる」と確認できた」とありますが、これで「まちの将来像」が普遍的なもの確認できたといえるのでしょうか。

「まちの将来像」の点検については、どのような分析が必要となるか、みなさまのご意見をいただきたいと思えます。

ワークショップで出てきた意見を見ると、「ありたいまち」の「①人が育ち、互いに支えあうまち（以下、「ありたいまち①）」、「②健康、安全・安心を実感できるまち（以下、「ありたいまち②）」に偏っており、あとの2つ、「③地域の資源を活かし、活力が生まれるまち（以下「ありたいまち③）」、「④次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち（以下「ありたいまち④）」の意見があまりに少ない。この結果からみえてきたこととして、「市民のまちに望む姿を4つの『ありたいまち』に分類したところ、偏りが見受けられるため、その是非も含めた検討が必要」とあります。「ありたいまち④」について出てきた意見が少ないですが、私なりの分析でいきますと、やはり、市民にとって身近な意見が出やすいので、「ありたいまち④」のようなところを普段から意識している市民は少ないと思えます。日常生活に関わるものについては、興味関心が大きいですが、「ありたいまち③」、「ありたいまち④」のような次世代を見据えた取組や産業振興については、我々の市民からの意見聴取方法も課題だし、市民に対して長期的なスパンで考えてもらうようにならなければならないと思えます。

それでは、それに対してでも、それ以外に対してのご意見でも構いませんので、ご意見はございますでしょうか。

(委員)

私は、ワークショップには参加できなかったのですが、どのような感じだったのでしょうか。参加した方に当日の様子をお伺いしたいです。

それぞれのワークショップで出てきた意見を見ると、年代によって出てくる意見が違うように感じます。特に、若い世代の方は、未来を見据えた意見が多いように見えますが、いか

がでしょうか。

(事務局)

ワークショップには、幅広い年代の方にご参加していただき、参加者の感想としても、「参加してよかった」、「色々なことを学べた」というような前向きな意見をたくさんいただきました。

普段から将来を意識しているかはわからないのですが、考えておきたいという市民が多いのかもしれないと感じました。

(委員)

私はワークショップに参加しましたが、前向きな意見を持っている方がたくさんいらっしゃいました。

参加した回は、子育て世代の方が多く参加しており、前向きな感じがしました。

(委員)

2点コメントがあります。

まず、1点目は、ワークショップから出た意見を「まちの将来像」の点検における結論ありきで整理しているように感じられるということです。出てきている意見を4つの「ありたいまち」に当てはめているように感じます。

「ありたいまち①」に整理されている意見には、「多文化共生社会が実現できるまち」や「多様性のあるまち」など多文化共生の意見が多く見受けられることから、市民のなかにもそのような意識をもった方が増えてきているのではないかと感じます。出てきた意見をもう一度精査し、分類の仕方についてもこれでいいのか整理しなおす必要があるのではないのでしょうか。「空気がきれいなまち」は、「ありたいまち③」の意見として分類していますが、環境の観点から「ありたいまち④」にも当てはまるのではないのでしょうか。

2点目は、施策評価結果の22ページにある「総合評価」についてです。

各施策評価結果の総合評価だと思いますが、これは、各分野別計画の審議会からの意見も踏まえた評価になっているのでしょうか。それとも庁内職員の意見でしょうか。この結果から、次年度の重点的に取り組む項目につなげていいのか、疑問を感じます。

子どもの学力についても、小中学校の学力調査の全国平均になかなか届かないという点については、「あまっ子ステップ・アップ調査」を実施し、一人ひとりの学力のつまづきを把握し、復習を支援する取組等を強化するとありますが、子どもの学力には、学費にかけられる費用が世帯によって違うなど、貧困世帯の課題という面もあるかもしれません。「あまっ子ステップ・アップ調査」で、そのようなことも分かるのでしょうか。

この総合評価のプロセスについてお答えください。

(事務局)

総合評価については、各審議会の意見が直接反映されているわけではないですが、各審議会で行っている各分野別計画の進捗確認と評価の内容が溶け込んでいます。

資料第1号-3『「ありたいまち」に向けた施策間連携ガイドブック』をご覧ください。

1 ページの下に、「まちづくりのPDCAサイクル」を掲載していますが、記載の通り、各審議会で行っている分野別計画の評価は、施策評価における各施策の評価に反映されており、それを踏まえて、総合評価を行っているので、プロセスとしては、審議会の意見を踏まえている形と考えています。

(部会長)

その質問については、当審議会がどのように「市のPDCAサイクル」を評価するのか、ということにもつながってきます。各審議会が評価したものを、当審議会が評価するのかということですが。

豊中市の場合は、それぞれの評価は各担当部局に任せて、その評価が本当に相応しいかどうかをメタ評価するという流れで実施しています。

(委員)

私も総合計画審議会としては、個々の評価に立ち入らない方がいいと思います。メタ評価のように、プロセスがちゃんとしていればいいと思います。

(委員)

コメントが1つあります。

資料第2号-2の2ページ「市民意見聴取により見えてきたこと」に、「望むまちの姿としては、『つながり』を求める意見が多い」とあります。確かに、ワークショップで出た意見を見ると、そうとれる意見もありますが、多文化共生についての意見が多いことから、だれもが住みやすい社会を望んでいるととれるし、歩きタバコや自転車など、マナーについての意見もあるので、結論ありきで考えられているように感じます。

「『つながり』を求める一方で」など、多様な意見を取り入れるべきではないでしょうか。

次に、質問が2点あります。

1点目は、「市のPDCAサイクルについて」です。

施策評価結果の64ページにある高齢者支援の施策についてですが、これは担当部局が評価したものを評価し、次の取組につなげていくということですが、担当者の評価と市長の評価（「評価結果」）が一致していない場合はどう考えればよいのでしょうか。

「主要事業の提案につながる項目」に、「介護サービスの基盤整備と担い手づくり」とありますが、「評価結果」にはそのような記載はないので、担当部局はどのように考えて記載しているのでしょうか。

(事務局)

基本的には、市長の評価（「評価結果」）を受けて、次の取組につなげていきますが、全ての取組にすぐ取り組めるわけではないので、優先順位をつけて取り組んでいます。

介護については、例えば、「認知症個人賠償責任保険」の導入については、令和2年度の主要事業となっていますが、財政面の課題もありますので、すぐに取り組めるものと、継続検討となっているものがございます。また、事業化には政策査定や予算査定といった財政部局との調整もがございます。

基本的には、「評価結果」に基づいて検討していきますが、即座に対応できるものとそうでないものがあるということです。

(委員)

事業化されていない項目についても各部局では、継続して検討しているということですね。

(部会長)

我々も、どのようなプロセスを経て、主要事業・一般事業が決められているのか、共有しておく必要があります。市長の意見がどのように反映されているのか、知っておかなければならないと思います。

他にご意見はありますか。

(委員)

資料第2号-2「市民意見聴取により見えてきたこと」に、『『まちの将来像』を普遍的なものとした場合、時代の変化や影響を受けにくいことが確認できた。』とあります。時代の影響を受けにくいという点については、そうかもしれませんが、今の「まちの将来像」は尼崎だけでなく、他の市でもいえることなのではないでしょうか。

尼崎市で、特色がでてくるところがどこかと考えると、「ありたいまち③」、「ありたいまち④」の意見が少ないのは尼崎市の特徴をつかみかねているのではないかと思います。やはり尼崎市は産業が基盤となるまちだと思うので、そこを意識してはいかがでしょうか。

阪神間の他市と尼崎の違いはやはり「産業」が大きく、だからこそ、人口が増え、交通も便利になった。私が手掛けている仕事に復興まちづくりや「衣・職・住・育（教育）」がありません。職＝仕事（産業）を尼崎の特徴として出せればと思いました。

産業が専門の委員にお尋ねしたいです。

(部会長)

それぞれワークショップで出た意見が、4つの「ありたいまち」に当てはまるからと言って、「まちの将来像」が普遍的なものであるとは限らないと思います。

生駒市の総合計画を見直した際に、今後さらに進む人口減少と少子高齢化の進行による人口構造の変化を踏まえ、これまで掲げてきた「住宅都市」という基本的な方向性を受け継ぎながら衣・職へ暮らし方を変え、「自分らしく輝けるステージ生駒」を将来都市像に掲げ、大きく方向性を変えました。

大きく方向性を変えると、市民がついてきてくれるのかという不安もあるかもしれませんが、尼崎については、そうではなく産業を基盤に成り立ってきたまちです。

おっしゃるように産業が専門の委員にご意見を伺いたいです。

(委員)

産業については、産業振興基本条例のもと産業振興推進協議会を設置しており、その中で経済界の方と意見交換をしているところですが、総合計画にある産業の枠が小さいのが気になります。

今回、ワークショップで出た意見をみても、「ありたいまち③」として分類されている意見には、「尼崎に、あんかけちゃんぽん以外にも名物を作ってほしい」、「尼崎の観光地はなにか」など、観光の視点ばかりになっており、非常に違和感があります。

尼崎は、かつての公害も含め、産業に支えられ、産業により発展してきたまちです。

産業そのものとして、従来のイメージで議論していくのは難しいですが、「産業」と「教育」とか、「産業」と「住宅」とか、「産業」と「福祉」を組み合わせるなどして、「産業」を入れ込んで、尼崎がどういう方向性を示せるのかみせてほしいと思います。

また、尼崎商工会議所のまちづくり委員会を対象にワークショップを行っています。発言が少なく寂しい整理になっています。他にもさまざまな知見をお持ちの方が産業界にはいますので、経済部の繋がりを活用してインタビューするなど、ワークショップだけでなく他の手法により意見を聴くことができたのではないかと感じています。

(部会長)

誰に、どのように聴くかによって、結果がずいぶんと変わってくるだろうということですね。

次回以降は、聴く対象、聴く手法について研究して欲しいと思います。

また、資料第2号の「点検結果のフレーム（イメージ）」にある項目ですが、分析するにあたり、対象者及び調査方法についても考えなければ、見えてこないということです。

市民意識調査についても、結果の平均値をとっても従来型の意見になってしまいますので、先進的な取組を行っている方の意見をとると、違う結果が見えてきます。

産業だけでなく、市民に対しても同じということです。

(委員)

「まちの通信簿」とワークショップを結び付けて、4つの「ありたいまち」を考えるということではできないのでしょうか。

(事務局)

「まちの通信簿」は、4つの「ありたいまち」に向けての主要取組項目の評価をしておりますので、そういった意味では、「ありたいまち」につながっていますが、具体的に何かをやっているというわけではありません。

(委員)

市民から出た意見と、「まちの通信簿」の整合性をはかってみてはいかがでしょうか。

市として考えている、施策評価結果を踏まえ、特に重点的に取り組むとしている項目について、市民もそう思っているのか、ワークショップの意見に照らし合わせてみてはどうでしょうか。

さきほどおっしゃっていたように、ワークショップにおいて多く出た「多文化共生」は施策5で、防災について施策11になっています。ワークショップで出た市民の意見が、どの施策に当てはまるのか整理してから、それぞれの「ありたいまち」に当てはめてはいかがでしょうか。

(部会長)

ワークショップで出た意見を個々で分析するのではなく、横ぐしで考えてはどうかということですね。

(委員)

2点コメントさせていただきます。

1点目は、施策評価結果のところで、「まちの通信簿」についてですが、それぞれの項目について、平成29年度と平成30年度が比較されており、そこには矢印があるので、これが上向きであれば良い結果と感じてしまいますが、実際は上向きなのか疑問を感じるので、数字の解釈の仕方を記載されているのだと思いますが、記載方法を吟味したほうが良いと感じます。

「子どもたちの学力を伸ばしたい」という目標に対して、結果が下がっていることになりましたが、数値をみても誤差の範囲かなと思いますので、数字の結果だけでなく、もう少し分析してみたいかがでしょうか。例えば、不登校児童が増えていますが、それはなぜなのか分析してはと感じます。

2点目は、ワークショップと、ネットアンケートについてです。

それぞれのワークショップは、どのような目的で開催しているのか気になりました。ワークショップによっては、市民の意見を聴く場なのか、市民と一緒に学ぶ場なのか。資料をみると、市民と一緒に学ぶというワークショップもあるように感じるので、ワークショップ内で市からの話を聞き、インスパイアされての回答かもしれないという印象を受けました。

先ほどの横ぐしでみるという話ですが、そもそも施策評価とワークショップが設計の段階で紐づいていないのではないかと思いますので、次回開催する際には、紐づいて設計できるのではないかと思います。

ネットアンケートについては、資料第2号-2「市民意見聴取により見えてきたこと」に、「個人で完結する取組については、『できている』『ややできている』と感じている市民が多い」とありますが、この「個人で完結する」という定義が分かりません。あらゆることが個人で完結しないから公共があると思います。やや強引に持って行っているかのように感じます。「防災」や「健康」、「子育て」などは個人で完結するのでしょうか、何を測るかによって変わってくると思います。

(部会長)

「個人で完結する」という言い方に違和感があるのかもしれません。

恐らく、事務局としては、「個人で取り組める」というような趣旨で書いているのではないかと思います。

(委員)

「個人で取り組める」という意味なら理解はできますが、ただ、そこを強調する意味と趣旨がわからなかったです。

(委員)

率直に申し上げますと、今、尼崎が直面する困難を真正面から総合計画に位置づけているのか疑問です。教育、防災、新型コロナウイルス感染症の問題について、平均値の答えしか書いていないと感じます。総合計画でそこまで踏み込むのかは議論の必要がありますが、

「主要事業のポイント」に挙げられているポイント2・ポイント3には、教育に関する項目が挙げられていますが、ただ、今、尼崎市で起きている凄惨な現場を報道で見ると、これでいいのか、市民はどう思うのだろうかと感じてしまいます。

ポイント2に「いじめ・体罰の根絶に向けた取組を強化」とありますが、一つひとつの項目についてではなく、構造的なものに課題を抱えているなか、根本的なところから逃げているのではないのでしょうか。

ポイント3の「新たな学習指導要領等を踏まえた教育の充実」についても、新たな指導要領を踏まえないことはあるのでしょうか。それをわざわざ書く必要はあるのでしょうか。

安全・安心について考えてみても、南海トラフ巨大地震も、新型コロナウイルス感染症についても、次期計画が世に出ていく頃には、直面している問題として市民は認識していて、無視できない問題になっており、市としての姿勢を示すべきだと思います。

(部会長)

どのようなものを特化していくのか、普遍的なものでいいのか。

各分野別の審査は各審議会で評価し、当審議会では、構造的な大きなものを評価していく。もっとターゲットを絞り、もっと構造的な事をどう変革していくかということが必要ではないかと受け取りました。

そもそも、総合計画は何をどうしていくものかと考えさせられるご意見でした。

学習指導要領については、より自立を促し、自身で考えて行動できる子どもを育てるというものに、大きく変わりました。

新型コロナウイルス感染症の問題についても同じで、外出自粛要請の段階で、一人ひとりが責任感を持って行動をしなければならない場面において、たいしたことないと思える方が多く、結果、緊急事態宣言が出てしまった。

そういった中で、これからの10年間、何を見据えていったらいいのか考えなければならないと思います。

(委員)

安全・安心を考えるときに、「個」も大事ですが、「つながり（共助）」も大事です。

新型コロナウイルス感染症についても、自分は大丈夫だが、他の人に移してしまうかもしれないと考えて、自粛できるか、責任が求められます。スウェーデンでは国民に責任を求めているようです。安全・安心で大事なものは、課題を隠さずに皆で共有することだと思いました。

(委員)

さきほどの委員の発言を聞いて、事務局が作成した資料ベースで考えてしまっていたと、はっとしました。

総合計画全体の点検をしていくということですが、行財政の改革については、点検されていないのではないのでしょうか。

現在、尼崎の教育でイメージが悪いのが体罰の隠ぺい問題です。

「主要事業のポイント」をみると、「体罰等の子どもの人権侵害に関する調査等の仕組みを構築」とありますが、これだけでいいのでしょうか。そもそも教育委員会が学校に対して強く介入できないという構造的な問題があるように感じます。

行政や組織の改革については触れられていないように感じますので、行財政の改革の点検についても触れた方がいいと思います。

(部会長)

現総合計画の点検については、次回の部会において議題に上がってくる現総合計画策定時との時代認識の比較においても、あわせて議論しなければならない部分だと思いますので、そこでもしっかりと議論したいと思います。

ご意見いただいたように、施策レベルの評価を積み上げても見えないところがあり、全体の評価を行っていくのが当審議会の役割なのではないかと思います。そこを踏まえて事務局として整理できないか考えてほしいです。

他に意見はありませんか。

(委員)

現在、大きな問題となっている新型コロナウイルス感染症の拡大ですが、次期総合計画の時代認識に加えるものになるのでしょうか。

(部会長)

新型コロナウイルス感染症の問題として取り上げるというよりは、個人的には転換のきっかけとしての記載になるのではないかと考えています。

新型コロナウイルス感染症そのものの問題ではなく、そこから見えてきた今の社会問題について、問題提起ができるのではないかと考えています。

(委員)

新型コロナウイルス感染症がきっかけで、見えてきた課題や、地域の集会在が制限されたことで地域活動が行えない状態になっているなど、状況が悪くなってしまったこともあるので、その影響についても次回議論できたらと思います。

4. その他

(部会長)

それでは、次の議題に移ります。

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

〈資料第3号について説明〉

(委員)

資料第3号「施策間連携の推進に向けた審議会等代表者による懇談会の開催について」に、「趣旨及び目的」として「今後のまちづくりについて意見交換や情報共有を行う」とありますが、「今後」というのは、どのようなスパンで考えているのでしょうか。事務局の考えを懇談会参加者とも共有しておかないと意見がかみ合わないのではないのでしょうか。

(事務局)

具体的な議題については、これからになります。初回ということで、総合計画で目指す姿や本市が進めるまちづくりの方向性について説明させていただき、その後意見交換をしていただくことになるかと思えます。

「今後」については、現総合計画の目標年次である2022年頃を想定しております。

(部会長)

各マスタープランも目標年次を持っているので、そのあたりの調整になりますね。

(委員)

「趣旨及び目的」として、「行政サービスの在り方にも変化が求められており、そういった社会に対応していくためにも、各施策の取組を着実に推進するだけでなく、これまで以上に施策間の連携を図りながら取り組んでいくことが重要と考えている」とありますが、これでは連携が目的となっているように見えます。連携はあくまで手段で、総合計画の存在意義は、バラバラに見えるいろいろな問題が、実は根っこではつながっていて、そこをアプローチしていくことだと思えます。

(部会長)

各審議会の代表者が考えていることが、同じ方向なのか、まずはそこを共有していこうということですね。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の問題があるように、緊急な事案がでてきたときに施策間の連携をしていくことも議題に含まれるのでしょうか。

(事務局)

今回、各審議会の代表者が集まるのが初めてなので、どこまでできるかというところですが、まずは課題を認識し、市の目指す姿の共有を図っていきたいと思えます。

ただ、このタイミングでの開催となると、新型コロナウイルス感染症の話題にはなるかもしれませんが、その視点に限定するのではなく、大きな視点で意見交換をしていただきたいと思います。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の事案についても医療だけではなく、福祉・経済・教育など他の施策につながっていることだと思えます。

(部会長)

これをもってすべての議題が終了いたしました。

(事務局)

本日、様々なご指摘を頂き今後の「市のPDCAサイクル」の参考にしたいと思っております。

また、今回出し切れてない、「時代認識」や「ファミリー世帯向けアンケート」については次回の議題とあわせて次の計画に向けて繋いで参りたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

5. 閉会

(部会長)

それでは、尼崎市総合計画審議会 第4回専門部会を終了いたします。

以 上